

# 第1部 環境施策の展開

## 第1章 主体性をもった人育ち・人育てにより、その先の社会づくりへ

本県では、環境問題の解決に重要なこととして、「環境を守るという県民一人ひとりの自覚と取組」と回答する県民の割合が71.3%と高い現状です（第45回県政世論調査より）。

こうした気運をさらに加速させ、世代を超えたつながり、同じ世代の世界中の人々とのつながりを意識しつつ、環境問題とその解決を自分ごととして捉え、身近なことから行動できる人を育て、そしてその先の持続可能な社会づくりを目指すことが求められています。

### 環境教育・環境学習の推進

#### ● 滋賀県環境学習の推進に関する条例

〈環境政策課〉

平成15年(2003年)7月に制定された「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」（平成23年(2011年)6月法改正され、「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」に名称変更）に基づき、全国初の環境学習推進条例として平成16年(2004年)3月に制定しました。

#### ● 滋賀県環境学習推進計画（第2次）

〈環境政策課〉

滋賀県環境学習推進計画は、「環境学習推進条例」に基づき、平成23年(2011年)3月に第2次計画を策定し、各種取組を進めています。

第2次計画においては、基本目標として「持続可能な社会づくりに向けて主体的に行動できる人育て」を掲げ、重点的に取り組むべき方向として、「低炭素社会づくりに係る環境学習の推進」と「体系的な自然体験学習の推進」を示しています。

本県では、この計画に基づき、平成17年(2005年)6月に滋賀県環境学習支援センター(現琵琶湖博物館環境学習センター)を設置し、環境学習推進のための支援や情報提供を行う体制を整えました。

#### ● 琵琶湖博物館環境学習センター

〈琵琶湖博物館〉

学校や市町、企業や自治会などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供したり、ホームページやメールマガジンなどにより発信を行い、環境学習の場づくりを応援しています。

平成25年度は、地域の環境講座、学校での環境をテーマとした授業、職場での研修会等の企画づくりなど、249件の環境学習に関する相談を受け、サポートを行いました。



#### ■ 環境学習情報ウェブサイト「エコロレーガ」

〈琵琶湖博物館〉

環境学習を担う人たちを対象に、環境学習の企画やプログラムづくりに必要な学習事例・人材・施設（フィールド）・教材・環境関連データなどの情報を一元的に発信しています。

また、施設・市民団体、行政などが主催する環境学習関連イベントの情報を収集し、メールマガジン「そよかぜ」として毎月2回発行しています。

#### ■ こどもエコクラブ

〈琵琶湖博物館〉

幼児から高校生の子どもたちが、環境を大切にする意識を持ち、環境にやさしい暮らし方を実践していくために仲間を集めてクラブをつくり、自然や生きものの観察や環境保全活動などに取り組むもので、全国で取り組まれているクラブ活動です。

平成25年度は活動交流会の開催などを通じて、こどもエコクラブ活動を応援しました。県内で137クラブ、5,805人の会員・サポーターが活動しました。



こどもエコクラブ活動交流会

#### ■ 環境・ほっと・カフェ

〈琵琶湖博物館〉

関係団体と協力して、環境活動や学習を促進していくための情報交換、現地体験等を行う交流や研修の場を設けています。

平成25年度は、「ちっちゃなこどものしぜんあそび」、「切り絵で遊ぼう!」、「はじめてのシカ肉」をテーマに8回開催しました。



## ● 環境学習を担う人材の育成と活用

### ■ 淡海生涯カレッジ開設事業 (教育委員会生涯学習課)

環境問題をはじめとする地域の課題に対して、自ら主体的に学び、活動しようとする人材を育成するため、地域の教育機関の連携・協働のもと、公民館などでの日常的な学習により問題意識を高め、高校などでの実験・実習による体験的な学習を経て、大学などでの理論的な学習まで深めることのできる体系的な学習プログラムを「淡海生涯カレッジ」として提供しています。平成25年度は、大津、草津、湖南、彦根、長浜の5校において、環境や健康などをテーマに125名の県民の方々が受講されました。修了生の多くの方々が、学習成果を生かして地域で環境学習などの指導者やリーダーとして活躍されています。



### ■ 「地域の力を学校へ」推進事業 (教育委員会生涯学習課)

「しが学校支援センター」では、地域の人々や企業・団体・NPO等の方がそれぞれ持つ豊富な知識や経験・思い・アイデアを学校教育活動に取り入れるとともに、学校を支援する仕組みづくりを進めています。

「子どもたちの学びを深めたい」、「こんな授業をしてみたい」という地域の人々や企業などの思いと、学校側の「総合的な学習の時間などで、環境教育や国際理解教育に取り組んでみたい」、「地球温暖化の仕組みを詳

しく知りたい」などの要望を調整し、連携授業を行えるように支援しています。



企業・団体などによる  
学校支援メニューのブース出展



連携授業の様子

### ■ 滋賀県学習情報提供システム「におねっと」

(教育委員会生涯学習課)

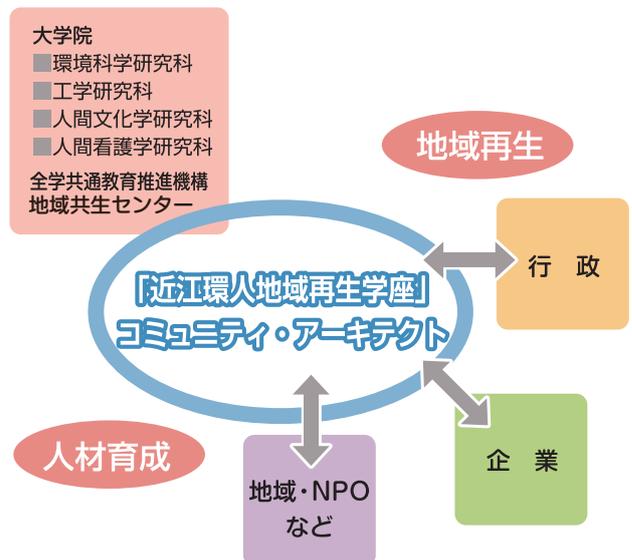
「におねっと」は、企業・NPO・学校等が主体的に実施する環境講座等多様な学習情報を一元化し、県民の主体的な生涯学習を推進しています。企業や団体等が行う「地域で学ぼう出前講座」、「学校支援メニュー」は、環境学習をはじめ様々な学習機会を身近な地域や学校に提供しています。

また「におねっと」では、環境学習等様々な学習機会を活用できる視聴覚教材(DVDやビデオ)の貸出しをしております。平成25年度は約318万件のアクセスがあり、滋賀県内の学習情報提供システムとして、広く県民に親しまれています。

### ■ 近江環人地域再生学座

(滋賀県立大学)

滋賀県立大学では、大学院の副専攻プログラムとして、大学院研究科の学生および社会人を対象に、湖国近江の風土、歴史、文化を継承し、自然と共生した美しい居住環境、循環型地域社会の形成に向けて、地域診断からまちづくり(コミュニティ活性化、環境改善、市街地再生、地域文化育成など)までの複数分野に関わる課題を横断的、統合的に捉え、行政、企業、NPOなどそれぞれの立場で地域再生のリーダーとなる資質を有した人材を育成しています。所定のカリキュラムを修了し、検定試験に合格された履修者に対しては「コミュニティ・アーキテクト(近江環人)」の称号を付与することとし、これまで計89名の方々に称号を授与しています。



## ● 環境教育の推進

■ **環境教育副読本の活用** (教育委員会学校教育課)  
 環境教育副読本を作成して、学校での環境教育に活用しています。



あおいびわ湖  
(小学校編)

あおい琵琶湖  
(中学校編)

琵琶湖と自然  
(高等学校編)



環境教育副読本による学習の様子

■ **環境美化の日における活動** (教育委員会学校教育課)  
 5月30日、7月1日、12月1日を「環境美化の日」とし、環境美化、環境保全に向けた具体的な行動として、全ての公立学校において環境美化活動や啓発活動を実施しています。

■ **環境教育モデル校** (教育委員会学校教育課)  
 環境教育モデル校を設置し、その研究成果を環境教育実践事例集として本県のホームページに掲載することにより、各学校における環境教育の質的な充実を図っています。平成25年度は、34校が参加しました。

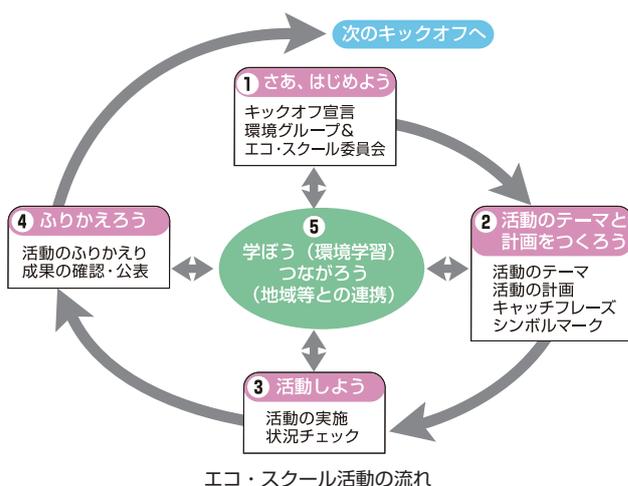
■ **環境教育研究協議会** (教育委員会学校教育課)  
 各学校における環境教育の推進および充実を図るため、教員の指導力の向上を目指して、小・中・高等学校・特別支援学校教員を対象にした環境教育研究協議会を開催しています。

■ **しが環境教育リーディング事業** (教育委員会学校教育課)  
 持続可能な社会の実現に向けて、人と環境とのよりよい関係を築く環境教育のあり方を明らかにするため、NPO法人や事業所、琵琶湖博物館などと積極的に連携し、4つのテーマに基づく研究実践を推進しています。  
 これまでの環境教育の実践の成果と課題を明らかにし、持続可能な発展のための教育(ESD)の視点を重視しながら「体験を核とした探究的な学習内容」や「校種間の効果的な連携」などの研究実践に取り組んでいます。

## 研究実践を推進するリーディング校

「人と自然環境部会」 ○草津市立渋川小学校 ○草津市立笠縫東小学校 ○草津市立玉川中学校 ○県立湖南農業高等学校	「人とエネルギー部会」 ○近江八幡市立老蘇小学校 ○近江八幡市立島小学校 ○近江八幡市立八幡中学校 ○県立八幡工業高等学校
「人と社会生活部会」 ○大津市立仰木小学校 ○大津市立逢坂小学校 ○大津市立志賀中学校 ○県立八日市南高等学校	「人と生命部会」 ○長浜市立富永小学校 ○長浜市立高月小学校 ○長浜市立西浅井中学校 ○県立米原高等学校

■ **エコ・スクール** (環境政策課)  
 エコ・スクール活動とは、将来の社会づくりの主役である児童・生徒が、主体的に環境学習・保全活動に取り組む力を身につけることを目的として、学校全体で地域の人と連携しながら環境学習をする活動のことです。  
 エコ・スクールの登録をし、計画に基づく活動を実践した学校には、知事から認定証を交付しています。  
 平成25年度は、21校がエコ・スクールに認定されました。



## ● 体系的に学ぶ環境教育の推進

■ **幼児自然体験型環境学習** (環境政策課)  
 体系的な自然体験学習の推進には、幼少期における体験を通じた環境学習が重要であることから、本県の持つ歴史や自然を活かしたプログラムによる、幼児の自然体験型環境学習を推進しています。



学習会の様子

平成23年度に発行した、幼児のための自然体験プログラム集「新・うおーたんの自然体験プログラム」を基に、県内の幼稚園・保育所等を会場に、指導者を対象とした実践型の学習会を開催し、指導力の向上を図っています。平成25年度は33の園・所が学習会に参加しました。

**■森林環境学習「やまのこ」** 〈森林政策課〉  
 平成19年度から、小学4年生を対象に、学校教育の一環として、県内の森林環境学習施設（8施設）で、体験型の環境学習を実施しています。

次代を担う子どもたちが、森林をはじめ、環境に対する理解を深めるとともに、人と豊かに関わる力を育めるよう、やまのこ専任指導員と学校が連携し、「森に親しむ学習」、「森づくり体験学習」、「森の恵み利用学習」、「森のレクチャー」などの学習プログラムを展開しています。

県土の2分の1を占める森林が、琵琶湖の水源として重要な役割を果たしていることに気づき、5年生の琵琶湖フローティングスクール「うみのこ」の学習につなげていくこともねらいの一つにしています。

平成25年度は、県内ほぼ全ての小学校243校が「やまのこ」事業に参加しました。



**■びわ湖フローティングスクール「うみのこ」** 〈教育委員会びわ湖フローティングスクール〉

びわ湖フローティングスクールは、学校教育の一環として、県内すべての小学校および特別支援学校、外国人学校の5年生を対象に、母なる湖・琵琶湖を舞台にして、学習船



学習船「うみのこ」とカッター活動

「うみのこ」を活用した1泊2日の宿泊体験学習を展開してきました。昭和58年(1983年)の就航以来31年目を迎え、乗船した児童も49万人を超えています。

当スクールでは「うみのこ」での学習を通じて、児童に「夢とロマン」を抱かせ、人と自然へのやさしさをもつ人間形成を行うことを目的としています。そして体験的に学ぶ様々な学習活動を通して、身近な地域の環境に主体的にかかわる力や人と豊かにかかわる力の育成を図っています。

中でも「びわ湖環境学習」と名付けている領域では、「琵琶湖に学ぶ 琵琶湖を通して学ぶ」をテーマに、「カッター活動」や『「湖の子」水調べ』など当スクールならではの環境に関する各種の体験プログラムを用意し、各学校の教育計画に応じて実施しています。

また、下流府県の小学生にも乗船してもらい「飲水思源<sup>いんすいしり</sup>」の心を育てています。

**■ラムサールびわっこ大使** 〈自然環境保全課〉  
 次代の環境保全活動を担う小学生を「びわっこ大使」として募集し、琵琶湖について学習することや国際的な交流の場などで発表する機会を提供しています。平成25年度はタイで開催された「ESDのためのKODOMOラムサール国際湿地交流」などへ派遣しました。

**■農業体験学習「たんぼのこ」** 〈食のブランド推進課〉

子どもたちが農業への関心高め理解を深めるとともに、生命や食べ物大切さを学べるよう、自ら「育て」「収穫し」「食べる」という一貫した農業体験学習を平成14年度より開始し、平成25年度は207の小学校で取り組まれました。



また、農作業体験に加え、作物の生育観察、水田などに生息する動植物の観察といった環境学習への取組、地域伝統料理の学習や地元食材を利用した調理体験学習など地産地消への取組を「ステップアップ事業」として実施しています。

**■琵琶湖固有種ワタカで学ぶ南湖再生事業** 〈水産課〉

琵琶湖固有種のワタカ、ゲンゴロウブナを南湖に放流することにより、異常繁茂する水草の抑制など生態系の修復を図ります。この放流は、琵琶湖にすむ生き物が環境を守る力を持ち、在来魚介類の大切さとそれらを復活させる大切さを学ぶ環境学習の機会としています。



ワタカの水草摂食能力



植物プランクトンを食べるゲンゴロウブナ

**■琵琶湖環状線小学生体験学習プログラム支援事業** 〈交通政策課〉

小学生の琵琶湖環状線を利用した琵琶湖一周体験学習などにかかる鉄道運賃の一部を補助することにより、環境にやさしい公共交通である鉄道に親しむ機会の提供を図っています。

平成23年度からは「じゃ口の向こうは琵琶湖」をキャッチフレーズにして、県内に加え京都府・大阪府の小学校にも対象を拡大して実施しています。

◆平成25年度 参加生徒数 4,875人

## ● 環境学習の場や機会づくり

### ■ 生物多様性に関する自然観察会や学習会の開催

(自然環境保全課)

生物多様性の保全に関する意識の高揚や普及啓発を図るため、自然公園や身近な環境の中で、指導員のもと、自然観察会などを実施しています。



いきものふれあい室

住所：高島市今津町今津1758

電話：0740-33-7990

### ■ 琵琶湖博物館

(琵琶湖博物館)

琵琶湖博物館は、「湖と人間」との関係を過去にさかのぼって研究・調査し、資料を収集・整理し、その成果をもとに、展示や交流活動を行いながら、県民とともに今後の望ましいあり方を探るための施設です。

館内には、琵琶湖の生い立ち、湖と人の歴史やその関わりを紹介した展示、琵琶湖や世界の主な湖の淡水魚を集めた水族展示、子どもたちが五感を使って楽しく学べるディスカバリールームなどがあります。このような常設展示のほかに、毎年、様々なテーマで企画展示を開催しています。平成25年度は、最先端の研究をもとに、生物多様性とはどのようなものか、どのように役立ち、なぜ大切なのか、身近でもあり地球規模の課題でもある生物多様性について紹介する「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」(7月20日～11月24日)を開催し、67,347人の来観客がありました。平成26年度は、東アジアにおける湖沼のつながりを探り、農・漁・水を通じて湖と暮らしのあり方を見つめなおしながら、湖の環境保全を考える「魚米之里ー太湖・洞庭湖と琵琶湖の水辺の暮らしー」を7月19日～11月24日に開催しました。

滋賀県立琵琶湖博物館

住所：草津市下物町1091 電話：077-568-4811

### ■ 「食べることで、びわ湖を守る。」推進事業

(食のブランド推進課)

子どもたちが、琵琶湖と共存する滋賀県農業や地産地消について学び、理解を深められるよう、地域の生産者の思いや農業の取組を授業で紹介できるDVDを作成し、平成24年(2012年)4月に県内全小学校ならびに関係機関に配布しました。

引き続き、このDVDの利用を促進し、次代を担う子どもたちが、将来にわたり、環境にこだわった滋賀県農業を理解し支える人として育つ礎として役立てていきます。

### ■ 琵琶湖一周ウォーキング推進事業

(交通政策課)

滋賀県ウォーキング協会と連携して、琵琶湖の周り約250kmを11～12回に分けて歩いて一周する「琵琶湖一周健康ウォーキング」を開催しています。琵琶湖のまわりをぐるっとめぐる公共交通機関を活用し、環境に優しく健康づくりにも役立つ最も滋賀らしい観光スタイルとして、全国からのウォーキング来訪者に琵琶湖の豊かな自然環境や地域の生活文化の体感と学びの機会を提供し、滋賀の魅力を発信していきます。

◆平成25年度 開催実績：全11回 延べ参加者 2,392名



琵琶湖からの爽やかな風を受けて歩くひととき

### ■ ビワイチ観光ウォーキング認定事業

(観光交流局)

琵琶湖を歩いて一周した方を「ビワイチ観光ウォーカー」として認定する制度。平成21年のスタート後、ウォーキングの楽しみプラス達成感でウォーキング来客の増加を図ります。

◆平成26年3月までの認定登録実績：1,164名

## トピックス TOPICS

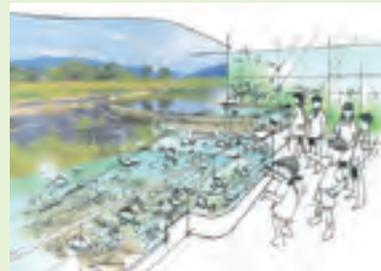
### 琵琶湖博物館リニューアルの基本計画を策定しました

(琵琶湖博物館)

開館以来18年となる滋賀県立琵琶湖博物館では調査・研究が進み、多くの資料・標本が蓄積されてきたことから、これまでの成果を常設展示に活かし、博物館の情報発信力を高めるとともに、環境学習の拠点としての機能を強化するため、リニューアルを進めています。

新しい博物館では参加型・体験型の展示を多く取り入れ、近年の環境課題についてもわかりやすく情報を提示し、タイムリーな展示を行います。また、展示室や屋外空間を活用する様々なプログラムを用意し、来るたびに新たな発見や学び、驚きと感動を見つけられる空間となるようリニューアルを行います。

「湖と人間」のあり方を県民の皆さんとともに考え、次代を担う人が育ち、地域活性化の核となる博物館を目指しますので、ご期待ください！



<ヤナの展示イメージ図>



<「ヨシ原を歩いてみると」の展示イメージ図>